

『Ballin'』

前田志門

【登場人物表】

福岡瞬 (12-17) 新西高校三年生  
望月阿礼 (12-17) 新西高校バスケットボー  
ル部主将

福岡悟 (48) 舜の父親

日向光太 (17) 英倫高校バスケットボール

部主将

森信尾 (17) 阿礼のチームメイト

湯川一 (17) 阿礼のチームメイト

矢崎達樹 (17) 阿礼のチームメイト

三園真奈 (30) 新西高校バスケットボール

部主将

望月圭吾 (44) 阿礼の父親

望月麗奈 (40) 阿礼の母親

望月一騎 (14) 阿礼の弟

望月実 (19) 阿礼の兄

陸道陸 (15) 阿礼のチームメイト

龍門寺学 (29) フリーランスのコンサルタ

ント

若い男女の連れ

警察

教員

校長先生

【あらすじ】

これは、ダンクも、インターハイ出場も、大逆転勝利も出てこない、今よりも「強く」なろうと闘う、等身大のバスケットボール部の話。

大学の学費を稼ぐために賭けバスケットを行う、凄腕 Ton1 プレイヤー・福岡舜 (16)。彼はボンボンで弱気な大男・望月阿礼 (17) から、金と引き換えにバスケットに入り、大会で結果を残してくれと交渉される。舜は金目当てで入部することを決める。

チームの中で圧倒的に強い舜は、厳しく独裁的な指導でバスケットを鍛える。しかし舜は、Ton1だと誰にも負けないが、**心対心**だと急激に弱くなるのが判明する。ボールを持つと「過集中」で周囲が見えなくなり、パスが全くできないのだ。自分の弱い面が明らかになり、不貞腐れる舜。阿礼は、本当は弱いのに偉そうな口を叩く舜を怒るが、対する舜は阿礼に逆ギレ。ただその衝突のおかげで阿礼も、舜に頼らず強気なプレイができるようになり、結果、チームは強くなる。またチームメイトは、自己中で面倒臭い舜の性格を受け入れる。確かに最初は舜を嫌っていたが、舜のおかげで初めて「勝利」の経験をして、感謝もしているのだ。

他のメンバーも成長し、チームは強くなる。しかしインターハイ予選直前、舜は過去の賭けバスケットが警察にバレて、停学処分になる。主力を失ったバスケット部は一回戦で負け、阿礼たちは引退。停学明けに舜は、阿礼らチームメイトが、自分が退学だけは免れるよう、先生に交渉していたことを知る。もう一度、チームメイトと戦いたいと思う舜。阿礼たちも、このまま部活が終わるのは悔しいと思っていた。

舜たちは引退試合として、強豪校と練習試合を組むことになる。初めて舜は阿礼やチームメイトを頼り、信頼し、連携して相手を翻弄する。結局僅差で負けてしまうが、後悔を残さず戦い切って部活を引退した舜たち。チームでのバスケが好きになつた舜は、大学バスケットにチャレンジしようと思つた。

○公園・バスケットコート（深夜）

ボールの弾む音が聞こえる、街灯に照らされたストリートのコート。

パーカーのフードを被り、マスクにヘアバンドと、顔が見えない男・福岡瞬（トコ）が、バスケットボールを一人でプレイしている。

若い男女グループ、舜に近づく。腕を組んでおり、カップルらしき男女もいる。

男 A 「あんたが、アンサー？」

男 A 、女の腕をほどくと、転がってきた舜のボールを取り、ドリブルをつく。

体格も大きく、力強いドリブル。

男 A 、ボールを舜にパス。

その後、財布から一万円札を一枚出し、ヒラヒラと舜に見せる。

× × ×

ベンチに一万円札が二枚置かれており、石が重石として乗せられている。

コートでは、舜がオフェンスで、男 A とバスケットボールの「TOPI」をしている。

舜にプレッシャーをかける男 A 。

「いけ！」と男の連れが声援を送る。

舜、華麗に抜き去り、シュートイン。

女 「インターハイ、出たんじゃないのー？」

男 A 「まぐれだ、まぐれ！」

× × ×  
舜が男 A から得点を奪うシーンが、いく

つも流れる。

× × ×

ボールを持つ舜の視界、男 A 一人だけが見え、それ以外は誰も見えない。

男 A 、息切れしている様子。

男 A にフェイクをかけ、抜いていく舜の姿が、スロモーションで流れる。

そのまま舜、シュートを決める。

舜、わっと歓声が聞こえ、驚く。

ギャラリイが来ており、舜の活躍を見ている。スマホで撮影している者もいる。

舜、ベンチに近づく。

石の下、六万円にお札が増えている。  
男Aと腕を組んでいた女、舜に近づく。  
女「ねえ！ プロの人？ すごい上手」

男A、舜の元へ来て、  
男A「(息切れして) もう、一回」

舜、女と男Aを交互に見て、  
舜「やめとけ。フラれちまうぞ」

男A「(怒り) ……」  
舜、お金を手にしようとする。

警察の声「君たち！ 何やってるの！」  
舜「！」

警察、来る。  
警察「賭けごと、してたでしょう！」  
酔ったギャラリーたちが、「つまんねーよ」と警察の道を塞ぐ。

舜、重石を避けてお札を手にするも、風に吹かれて三枚のお札が宙に舞う。

舜、それらは見捨て、自転車に跨り、急いで逃げる。

警察、ギャラリーをかいくぐる。  
舜、先を行っており、引き離す。

警察「待ちなさい！」  
ギャラリーの中、真っ直ぐ舜を見る、長身で痩せた男・望月阿礼(17)がいる。

阿礼、舜を追おうと前へ出る。  
阿礼「わっ」

と、他のギャラリーの足に躓き、転ぶ。  
転んだ阿礼、遠ざかる舜を見つめる。

○コンビニ(深夜)

口座に入金している舜。  
画面に映る預金額、約四十万円。

○道路(深夜)

自転車をこいでいる舜。  
勾配がキツく、長い下り坂に入る。  
目を閉じる舜。  
舜、ブレーキを使わず、加速する。  
向かい風で舜のフードが取れる。  
舜、鬱陶しくなり、マスクを耳から外す

と、風でマスクは飛んでいく。

舜、顔が明らかになる。男子学生である。充分加速したところで、目を開ける舜。

舜「ポリ公がよっ」

舜、そのまま猛スピードで下り切る。

○タイトル「Ballin'」

○新西高校・外観（日替わり）

○同・体育館

体育の授業中。

休憩中の阿礼、見回して人を探している。

○同・体育館倉庫

阿礼、そつと扉を開ける。

阿礼「（眩き）いた」

舜、座って参考書をブツブツと声を出して読んでいる。

阿礼「すいません」

舜、気づいていない様子。

阿礼「あのっ、おい」

阿礼、バスケットボールを舜の方へゆっくり弾ませる。

舜は気づかず、ボールが顔に直撃。

舜「いってーな！」

阿礼「ごめんなさいっ」

驚いた阿礼、下がると天井の出っ張りに、頭をぶつけ、痛がる。

舜、強く阿礼にパスをして、参考書に意識を戻す。

阿礼「（キャッチして）やっぱり、回転綺麗」

舜「俺に、用？」

阿礼、うんうんと素早く頷く。

阿礼、ポケットからスマホを取り出し、SNSの画面を舜に見せる。

舜、覗く。

舜が公園のコートで賭けバスケットをしてい  
る動画が、軽快な音楽と共に流れる。

阿礼「やってるよね。バスケットでギャンブル」

舜「！」

阿礼「Ton1で負けたことのない、ストリートの謎の王様。その名も、『アンサー』」

舜「……ちげーよ、俺じゃねえ」

阿礼、画面と舜を見比べて、

阿礼「そっくり」

舜、無視して参考書を開く。

阿礼「バスケット部に、入らない？」

舜「は？」

阿礼「福岡君がいたら、すごい、強くなる」

舜「お前、特進コースだろ？ 3年の4月に、

部活なんてやっていいのかよ」

阿礼「だって……好きだから、バスケットが」

舜「アホらし」

舜、立って扉を開け、出る。

阿礼「俺は嫌いだぜ、バスケット」

阿礼、舜についていこうとするが、扉の上の壁におでこをぶつけ、痛がる。

○パチンコ店

パチンコ台を見つめる、福岡悟（48）。

台の画面、数字が揃わない。

悟、ムカつき、台を叩く。

周りの客、迷惑そうに悟を見る。

○福岡家・リビング（夕）

荷物が多く、狭いアパートの部屋。

複数の大学パンフを見ている舜、奨学金の箇所、蛍光ペンで丸をつける。

悟が缶チューハイ片手に帰宅する。酒が

回っていて、顔が赤い。

悟「舜、メシ、あるか」

舜、振り返って悟に気づく。

悟、大学パンフを立てて見下ろす。

悟「出せねーぞ、学費なんか」

舜「生活費、稼いでから言えよ」

悟「大学なんて、なくてもなあ」

舜「言ってるんだろ、必要なんだよ、俺には」

舜、パンフレットを片付け始める。

舜「良い大学入って、良い会社入って、ちや

んと人生、勝つ」

舜、リュックを背負って玄関へ行く。

舜「一人で生きんの。子供にメシ代出させるとかしない。俺は絶対、頼んない」

悟「……」

舜「親父みたいに、なんない」

舜、そのまま家を出る。

悟、缶チューハイを一気に飲み干し、缶を握り潰す。

悟「(台所の方を見て)……」

悟、缶を台所のゴミ箱に、シュートの要領で放るも、外れる。

○学習塾(夜)

自習している生徒たち。

舜、事務員にプリントを渡され、席へ着く。

プリント、特別講習の案内である。

値段の欄、どれも十万円前後。

舜「……」

○道(体育館・コート(日替わり))

自転車に乗り、フードデリバリーをしている舜。

道沿いの体育館から、ボールの弾む音が聞こえる。

日向光太(17)の声も聞こえる。

光太の声「デイクフェンス！」

舜、その声を聞くと、自転車を止め、開いている裏口のドアから中を覗く。

中では、新西高校と英倫高校の試合が行われている。

新西高校の、阿礼、森信尾(17)、湯川一(17)、矢崎達樹(17)、陸道陸(15)

がコートを走っている。

ベンチでは三園真奈(30)が座っているが、スマホを見ながら観戦中である。

阿礼、インサイドでボールを持ち、ドリブルで体を当ててポストプレイ。

舜「お」

阿礼、攻めるのを止め、パスを出す。  
舜「(鼻で笑う) ビビリが」

そのパスがカットされ、そのまま英倫高校、速攻で点を決める。

ブザーが鳴り、ピリオドが終わる。

光太「ナイッシュュー！ お前最高！」

光太、チームメイトに駆け寄ってハグ。

舜「(光太を見て) ……」

光太、裏口の方が気になり、近づく。

舜の姿はない。

光太「あれ？」

スコアボード、英倫高校が100点差をつけて圧勝している。

○体育館・物置スペース

空いた場所をそれぞれ陣取っている、各高校のバスケットボール部。

端に阿礼たち新西高校のメンバーもいる。昼食を食べ終わり、帰りの支度をしているところ。

三園真奈(30)、彼らの元へ来て、

真奈「惜しかったー！」

阿礼以外、真奈を見る。

真奈「次は絶対勝てる。落ち込まないで。ね！」  
矢崎、スマホのインカメラで前髪を整えながら、

矢崎「落ち込んでるの、阿礼だけでーす」

真奈「そうなの？」

弁当をもぞもぞ食べる、阿礼の後ろ姿。

湯川「勝ち負けだけじゃない、楽しむことも大切だと思うな。(森に) ね？」

森「要らないなら、もらうよ」

森、湯川の食べ残しを箸で取る。

湯川「(気を取り直し) ね、リク」

陸道、弁当に手をつけず、下を見てじつとしてる。

湯川「リク？」

森「食べないなら…」

森、陸道の弁当に箸を伸ばす。

陸道「先輩すみません。俺、辞めます」

阿礼「……辞める？」

陸道「バスケット辞めて、陸上部行きます」

矢崎「マジ！？」

陸道「来ないかって、ずっと言われてたんです。それに次の代、俺一人だし」

阿礼「……ちよつと、待って」

陸道「すみません」

阿礼「せめて僕たちが、引退するまで……」

陸道「俺はもう、走り出したんです」

陸道、自分のリュックを取って、綺麗なフォームで走り去る。

真奈「わ、はやーい」

走り去る陸道を見つめる阿礼。

静まり返っている阿礼たち。

森、陸道が置いていった弁当を取って食べ始める。

矢崎「引退しちゃう？俺ら」

阿礼「！」

森「試合できないもんね、四人じゃ」

矢崎「頑張ったつてよ、またいつもみたいに」

阿礼「勝てる！」

急な大声に、驚いて阿礼を見る矢崎、森、湯川。

矢崎「俺だって、勝てたら良いけどさ」

阿礼「実は、凄く上手い人が、バスケット入りたいって言ってる！」

森「うそー」

湯川「誰？」

阿礼「……まだ秘密！」

○公園・バスケットコート（夜）

ボールをついている舜。

阿礼の声「バスケット、嫌いじゃなかったの？」

舜、声の方を向くと、阿礼が来ている。

阿礼、財布を取り出し、五枚の一万円札

を取り出して舜に差し出す。

舜「なんだよ、これ」

阿礼「お金。ギャンブルの」

舜「だから、俺じゃねーって」

阿礼、舜の全身をざっと見る。  
動画に出てきた人物と同じ格好。

舜「(観念して) そんなに今、持ってたねーぞ」

阿礼「いいです、お金」

舜「あ？」

阿礼「代わりに、勝ったら入って。バスケ部」  
舜、一度は五万円に手を伸ばすも、引っ  
込めて、ベンチへ行く。

阿礼「足りなかった？」

舜「お前みたいなのは決まって、最初は威勢  
がいいんだよ」

舜、ベンチで荷物を片付け始める。

舜「でも負けたらキャンキャン泣いて、被害  
者ヅラで、先公にチクる」

舜、自転車に跨る。

阿礼、走って舜の前に飛び出る。

舜「どけ」

阿礼「じゃ、言っちゃう」

阿礼、スマホでSNSの舜が映る動画を見  
せて、

阿礼「みんなに、これ」

舜「……(舌打ち)」

舜、自転車から降りる舜、コートへ向かう。

舜「ギャンブルって、言ってたか」

阿礼「？」

舜「これは博打じゃない」

阿礼「(よく分からず)……」

舜「必ず俺が勝つからだ」

× × ×

阿礼を抜く舜の映像が連続で流れる。

× × ×

舜、阿礼に対してポストプレイで体を当  
てる。

舜の方が明らかに小さいが、舜、阿礼を

吹っ飛ばし、シュートイン。

痛がって横になっている阿礼。

舜「情けねーの」

舜、阿礼を足で跨ぎ、ベンチまで歩く。

石の下に五万円が置かれており、お札の  
枚数を数える舜。

舜「俺がバスケットを嫌いなのは、お前みたいに、足を引つ張るやつがいるからだ」

舜、札束を見せて、

舜「毎度あり。夏季講習くらいは、これでいけんな」

阿礼「三十万」

舜「あ？」

阿礼「五十万、百万！ バスケ部に入って、インターハイまで連れていってくれたら、あげても、いい」

舜「マジで？」

阿礼「……うん」

舜「(考えて) 百あれば奨学金、安いのでいけるか」

阿礼、土下座をする。

阿礼「お願いします、お願いします」

阿礼を見下ろす舜。

舜「引くつて。流石に」

舜、リュックを背負い、自転車に跨る。

舜「そっか親父さん、どっかデカイ金融の、役員なんだっけ」

阿礼「……」

舜「お前が稼いだわけじゃないだろ。恥ずかしくねーのかよ」

舜、そのまま去る。

阿礼「……」

○コンビニ(夜)

五万円を片手に、入金の手続きをしている舜。

画面を見ていると、手が止まる舜。

画面の預金表示、約三百円。

○福岡家・外(玄関)(夜)

急いで帰宅する舜、勢いよくドアを開けるも、スムーズにドアが開かない。

複数の革靴が並べられており、ドアに突っかかっている。

舜、無理やり入ると、リビングから賑やかな声が聞こえる。

○同・リビング（夜）

舜、入る。

悟と、龍門寺学（29）ら、スーツを着た二十代後半の男数人が、談笑している。ホワイトボードが持ち込まれており、グラフや数値などが書き込まれている。

悟「おお、舜」

バスケットのウェアを着た、上機嫌な様子の子の悟。

龍門寺の声「君が舜くん」

舜、龍門寺の方を見るも、龍門寺が吸っているシーシャの煙に隠れて見えない。龍門寺、立ち上がって顔が見え、舜に名刺を差し出す。

龍門寺「ども、よろしくです。龍門寺です」

舜、受け取らず、悟を見る。

悟「父さんの、仲間だ」

舜「仲間？」

龍門寺「コンサルみたいなこと、やらせてもらってます」

悟「ビジネスを、始めるんだ」

悟、立ち上がると、床に転がっていたバスケットシューズに躓く。

悟「おっと」

床を見る舜。

シューズやバスケットのウェアなど、ストリートや古着系のアイテムが大量に置かれていた。

悟、シューズを手に取り、舜に見せる。

悟「これよ、アイバersonの、限定モデル」

舜「……」

悟「古着。今きてるんですよね？」

龍門寺「超いい感じですよ」

悟「今まではあれだったけどな、人生、逆転するんだよ。十六年ファイナルの、ウオリアーズに勝ったキャブズだ」

舜「……元手は？」

悟「元手？」

舜「金だよ。（服や靴を指し）これ買った金、

(龍門寺を指し)この詐欺師、雇った金」  
龍門寺「詐欺師って、ちよつとさあ——」

悟「(遮り)倍にして返す」

舜「……」

悟「信じろ、俺を」

舜「いくら残ってんの？」

悟「……」

舜「なあ」

悟「……家族だろ」

舜「答えろよ！」

悟「……」

舜、龍門寺のシーシャを持ち、壁に投げ  
る。

龍門寺「おおい！ まじで！？」

舜「逆転！？ もう五十だろ？ とっくに人

生終わってんだよ、諦めろよ！」

舜、家を出る。

○学習塾(深夜)

自習している舜、書くのを一度止める。

膝を机に、ゴンゴン！ と当てる。

隣の生徒、舜を迷惑そうに見る。

○新西高校・階段の踊り場(日替わり)

人気のない階段。

阿礼は踊り場に立ち、舜は階段に座って  
話している。

舜「インターハイ予選までな」

阿礼「ほんと！？」

舜「ただ、県代表はダメだ。現実的じゃない」

阿礼「……じゃあ」

舜「ベスト32」

阿礼「え、せめて、ベストフォー」

舜「ベストエイト。前金40」

阿礼「……」

阿礼、口を開きかけるも、階段の下を見  
てはっとする。

教師と生徒数人、階段を上り、舜と阿礼  
の間を通り過ぎる。

見合う舜と阿礼。

阿礼、通り過ぎるのを待ち、舜に握手を  
求める。

舜、無視して、階段を上がる。

舜「前金、明日な」

素早く何度も頷く阿礼。明るい表情。

○同・職員室前（日替わり）

プリントが並ぶ棚。

舜、入部届を一枚取る。

○同・男子トイレ・個室

ズボンを下げずに便器に座っている舜。

舜、個室下の隙間から、隣の個室へ入部  
届を入れる。

その隙間から、札束が舜の個室へ差し出  
され、受け取る舜。

○同・体育館・コート

並んでモップ掛けをしている森、湯川、  
矢崎。

森「福岡って？」

矢崎「あれだよ。普通科の、目怖いやつ」

森「あ、LINEのアイコン、真っ黒で無地の？」

矢崎「背景も」

森「去年の体育祭さ、クラス別リレー」

矢崎「あれな」

湯川「体育祭？」

矢崎「バトンを繋ぐなんて下らないっつって」

森「練習ブッチしてたの」

湯川「面倒臭いタイプか」

矢崎「無理に連れてくんなって話だよな」

森「試合出たいなら、助っ人呼べばいいし」

湯川「お互い、ハッピーにならなさそう」

と湯川、矢崎を向くと、急に目の前が真  
っ暗になる。

バスケットボールが湯川と矢崎の顔の間  
を、ストレスで通り抜ける。

ボールは壁にぶつかり、バウンドしてコ  
ートに戻る。

それを体育館に来ていた舜がキャッチ。

矢崎「危ねえって！」

舜、ドリブルして、右手でレイアップ。  
と思いきや、左手に持ち替えて、綺麗に  
ダブルクラッチを決める。

舜に見惚れる森、湯川、矢崎。

舜「悪い、手が滑った」

阿礼、コートに入り、

阿礼「今日から入部した：：ん？」

阿礼、悪い雰囲気気づき、話すのを止  
める。

舜は一人でシュートを打っており、矢崎、

森、湯川は舜を三人で眺めている。

× × ×

アップでジョギングしている舜たちバス  
ケ部。

先頭を走る阿礼、後ろを振り返る。

舜、ヘトヘトな森の背中を押している。

森「こんなに走らなくても、充分痩せるよ」

舜「ダイエツトのためじゃねえよ！」

森「もうダメ、死んじゃう：：さようなら」

森、ヘナヘナと倒れ込む。

舜、森の腕を掴み、引っ張る。

舜「へばんな！ 吐くまで走れ！」

× × ×

(日替わり)

舜たち、三角コーンをドリブルで抜いて、  
レイアップをする練習をしている。

矢崎、自分の番になると、止まる。

舜「さっに行けよ！」

その場でボールをつき続ける矢崎、反対  
側のコートで女子ダンス部が踊っている  
のを、チラチラ見ている。

女子ダンス部、フォーメーションが変わ  
り、矢崎の方を向いて踊り始める。

矢崎、コーンを抜かず、その場でドリブ  
ルをして格好つける。

舜「さっと！」

矢崎、ようやくコーンを抜いてレイアッ  
プするも、ボールが弾かれて邪魔される。  
舜が矢崎のボールに向かって、自分のボ

矢崎「ールを投げてぶつけたのだ。  
「危なっ！ おい！」

× × ×  
(日替わり)

制限時間内にシュートを多く入れた方が勝利の、バトル形式の練習をしている。舜と湯川がシュートを打って対戦中。矢崎がパスをそれぞれに出している。シュートを決める舜。

外す湯川。  
ブザーが鳴る。

阿礼「二十対四で、福岡の勝ち」

舜「(湯川に) ダッシュ五本」

湯川「負けたら走るとか、いけないよ」

舜「は？」

湯川「罰ゲームなんてやってたら、バスケットをみんな、嫌いになる」

舜「……」

湯川「なんていうか、ハッピーじゃない！」

○交差点(夜)

自転車で帰り道を走っている阿礼、横断歩道で止まる。

舜が来て並び、阿礼の方をチラチラ見る。

舜「やっぱよ」

阿礼「なに」

舜「ベストエイトじゃなくて、16に」

信号が青になり、自転車を走らせる阿礼。

○新西高校・玄関前(日替わり)

バスが一台停まっている。

他校の男子バスケット部の生徒、バスから降りている。

真奈が来て、他校の先生と挨拶をしている様子。

○同・体育館・コート

阿礼がシュートを打っている。

反対コートでは、対戦相手の生徒がアップをしている。

真奈、来る。

真奈「あれー、他のみんなは？」

阿礼「多分、まだホームルームです」

舜、来て、

舜「俺んところ、最後だったぞ」

阿礼「うそっ」

○バス停

森、湯川、矢崎がバス停へ歩いている。

阿礼、走って三人の前へ来る。

息切れして立ちほだかる阿礼。

三人、阿礼を無視して通り過ぎる。

湯川「帰り、カラオケ行く？」

森「うん。新作のクアトロピザ食べたい」

矢崎「この前繋がった、北高の女の子呼んで

いい？」

三人、バス停のベンチへ座り、スマホをいじる。

阿礼、今度はベンチの前へ来る。

じつと三人を見つめる阿礼。

視線に耐えかね、顔をあげる矢崎。

矢崎「流石に俺ら、もうきちーわ」

湯川「彼とバスケしても、ワクワクしない」

森「病気になるよ。あんなの続けてたら」

舜、三人、再びスマホをいじり始める。

舜「いいんじゃないか、辞めても」

阿礼の正面、森、湯川、矢崎の後ろ、舜がいる。

舜「俺もよ、雑魚と一緒にやってるから、正直

ストレス、溜まるだけだわ」

矢崎「そういうとこだっつってんの！」

舜、学校の方へ歩き始める。

阿礼、舜を止めようと、腕を掴む。

阿礼「お願い、(二人を指し)とめて」

舜「キャプテンの仕事だろ」

阿礼「僕のいうこと、聞かないから……百万

は？」

舜「あ？」

阿礼「必要なんでしょ、お金。あげないよ百万、返してもらおうよ？ 前金も」

舜「そういう時だけ、ペラペラと」

バスが来て、ドアが開く。

乗ろうと立ち上がる三人の元に、舜が来て、しゃがむ。

舜「体育館に、戻ってきてくれませんかでしょうか」

森・湯川・矢崎「(よく分からず)……」

運転手、舜たちの方を覗き、

運転手「乗らないのかい？」

舜「(湯川に)好きなようにやっつけていい。今日は思い切り、バスケを楽しんでくれ」

湯川「良いの？」

舜「(矢崎に)相手のマネージャー、死ぬほど可愛いぞ」

矢崎「うっそ」

舜「(森に)お前はなーんも、走んなくて良い」

森「うん、走るの嫌い」

舜「終わったら、焼肉奢ってやる」

森「焼肉？」

舜「(阿礼を指し)こいつが奢るって」

阿礼「え」

運転手「乗らないのー？」

一同「……」

○新西高校・体育館・コート

試合中。

舜、阿礼、森、湯川、矢崎がいる。

オフェンスのリバウンドを取る阿礼。

阿礼、ゴールを見るが、フリーズする。

舜「よこせ！」

阿礼、舜にパス。

舜、ディフェンスをかわし、シュートを決める。

森、湯川、矢崎、ぼーっとそのプレイに見惚れている。

阿礼、舜にハイタッチの手を差し伸べる。

舜、無視する。

阿礼「……(切り替えて)ディフェンス！」

× × ×

ボールを持つ舜。

舜の視界、相手のデイフェンスが一人いて、Toniの状態。他の人は見えていない。舜の視界に、阿礼が入ってくる。阿礼、舜のデイフェンスにスクリーンをかける。舜の視界、試合の風景に戻る。舜、ボールをコートの外に投げる。舜「タイムアウト！」舜、スタスタとベンチへ戻る。周り9人の選手、何があっただのかと呆気に取られているが、舜に遅れて、各々ベンチへ戻り始める。

○同・同・ベンチ

舜たち、各々水分補給をしている。

森「ね、見て」

スコアボード、新西高校が八点差で勝っている。

湯川「今日、もしかしたら」

矢崎「もしかすんじゃないか？」

水を飲む阿礼、席を空けて座る舜が気になり、

阿礼「タイムアウト、なんで」

タオルを頭に被ったままの舜。

舜「かけんな。スクリーン」

真奈「(湯川に)スクリーンって？」

矢崎「知らないんすか」

湯川、ベンチに置いてある、戦術ボードを動かして説明する。

湯川「福岡のデイフェンスの行きたい方向に、

阿礼が壁になるんです」

森、歩く。

矢崎が森の進行方向のついたて(スクリーン)になって、二人はぶつかる。

森「壁で邪魔されてるから、福岡が抜きやすくなります」

真奈「なにがいけないの？ 反則技？」

矢崎、森、湯川、分からない様子。

舜、被ったタオルを取って、水を飲む。

舜「(阿礼に)俺があいつを、抜けないとでも

思ったのか」

阿礼「え？」

舜「誰かにいねーとなんもできない、ビビリとは違い。一人で全員抜ける。デクのぼうは黙って見とけ」

矢崎、二人の間に入り、

矢崎「まあまあまあ、勝ってるんだし？」

阿礼「ごめん」

舜「(舌打ち) 謝んのかよ」

笛が鳴る。

舜、一人先にコートに戻る。

○同・同・コート

パスをカットして、高速で相手のゴールへドリブルする舜――

× × ×

日が暮れている。

片付け中の新西高校バスケット部一同。

阿礼はゴールをしまっており、舜は一人でモップをかけている。舜とは離れた場所、森、湯川、矢崎が並んでモップをかけている。

矢崎「相手のマネージャー、男じゃん！」

森、矢崎に、焼肉風のお菓子「焼肉さん太郎」を見せて、

森「焼肉ってこれ、詐欺だよね」

矢崎「(笑い) やばっ……あれ？」

矢崎と森、湯川が並んでいないことに気が付き、後ろを向く。

湯川、スコアボードの前に立ち止まっている。

スコアボード、新西高校が十点差で勝利している。

湯川「……でも、勝ったんだね」

森「変な感じだよね、勝ったね」

矢崎、スマホでスコアの写真を撮る。

森、湯川もスマホを出して、スコアボードを撮り始める。

矢崎、画面に入りポーズを撮る。

湯川、森もボードの近くへ行く。

矢崎「誰が撮るんだよ!?」

阿礼「三人を微笑ましく見ている。」

モップが落ちる音がする。

阿礼、舜の方を向く。

モップをその場に放って、そのまま体育館を出る舜。

阿礼「？」

○同・自転車置き場(夜)

阿礼が舜を追いかけてくる。

自転車の鍵を外している舜、阿礼に気が付くも、無視。

阿礼「勝ったんだよ？ 僕たち」

舜「お前も嬉しいか？ あいつらみたいに」

阿礼「うん。だって」

舜「俺たちは勝ったけど、強かったのは俺だけ。相手は雑魚。多分、お前らはもつと」

阿礼「……」

舜「それでも、嬉しいか？」

舜、自転車に跨り、校舎を出ようとする。

阿礼「雑魚、なのかな」

舜「ああ雑魚だ」

阿礼「確かに、福岡よりは、下手だけど、でも、勝ちたいって気持ちは、ずつと……」

舜、自転車で阿礼を通り過ぎると、ベルを鳴らす。

阿礼「(舜の方を振り返り)？」

○道(夜)

舜、阿礼の順で自転車を走らせている。

舜、止まり、阿礼も並ぶ。

二人の前方は、下り坂。

舜、坂の先のチカチカと消えかけているライトを指差し、

舜「あのぶつ壊れたライト、先行った方が勝ち」

阿礼、前方を眺める。

勾配のきつい長い下り坂で、暗くて先が見えにくい。

阿礼「危ないよ？」

舜「だろーな、ほら」

舜、坂の終わりの交差点を指さす。

阿礼、目を凝らす。

交差点に置かれた花束。

舜「でも、勝ちたいんだろ」

阿礼「……」

舜「雑魚じゃ、ないんだろ」

阿礼「こういうこと、言っていないよ」

舜「じゃあ帰れ」

阿礼「……」

舜「強制じゃねーし」

阿礼「……」

阿礼、舜の不意をついて、フライングで坂を自転車を下り出す。

ゆるくブレーキをかけて、慎重に進む阿礼。

舜、軽く笑い、数秒待つ。

舜、ノーブレーキで一気に坂を下る。

舜の目、閉じている。

舜の自転車、阿礼に並ぶ。

阿礼、焦ってブレーキを離す。

猛スピードで並走する二人。

スピードが上がる阿礼、交差点に近づく。

阿礼「……」

阿礼、ブレーキをかける。

阿礼、バランスを崩し、派手に転倒。

舜、猛スピードで坂を下りきり、ゴール

のライトへ真っ直ぐ到達する。

坂の途中の歩道で、痛がっている阿礼。

舜、自転車で坂を登り、阿礼のところまで来る。

阿礼「……」

阿礼「こんなの、バスケ関係ない」

阿礼「関係ねーな」

阿礼「一点にも、ならないし」

舜「ああ、なんない」

阿礼「何の得にも、ならないし……別に、負

けたって」

舜「そう」

阿礼「？」

舜「バスケットじゃねーけど、勝ち負けはある」  
阿礼「……」

舜「(胸を叩き)「このな」

○福岡家・舜の部屋(夜)

舜、シューズを取り出して棚に置こうとするも、手が止まる。

シューズに穴が空いている。

舜「あーっ」

○同・リビング(夜)

棚を開ける舜。

たくさんの商品用のバスケットシューズが置かれている。

その中の一足を手に取り、眺める舜。

舜、シューズ袋にそれを入れる。

シューズを取ったところから、何かが床に落ちる。

ビデオテープである。

舜、拾ってタイトルを見る。

「インターハイ予選 準決勝」と文字が見えるが、その他は汚くて読めない。

○望月家・リビング(夜)

窓から見える夜景。

家具やしつらえも豪華な、タワマン高層階の広い一室。

大量のトロフィーが飾られている棚。

夕食中の阿礼、望月圭吾(44)、望月麗奈(40)。

圭吾「今日、試合だったのか」

阿礼「一応、勝ったよ」

圭吾「勝ったのか!? おお、とうとう」

望月一騎(14)と望月実(19)が自身の部屋から食卓へ来る。一人とも背が高く、ガタイが良い。

一騎「兄ちゃん、また代表選ばれたって！」

実「両手を広げて嬉しそう。」

圭吾「代表!？」

実、胸に手を当てて、

実「日本のラグビー界は、俺が背負う」  
麗奈「はい、おめでと」  
と食事を持ってくる。  
一騎「ヤバイよね、代表って」  
実「アンダーだけどな。お前も全国、決まっ  
てるだろ」  
一騎「3番打たせてくれるって！ 監督が」  
圭吾「阿礼も練習試合、勝ったんだって」  
実「あれ、部員、全然いないって」  
阿礼「最近、入って」  
一騎「相手どこ？」  
阿礼「別に。知らないと思う」  
実「阿礼は何点取ったんだ？」  
阿礼「……」  
実「ん？」  
阿礼「四点とか」  
一騎「え、全然じゃん」  
麗奈「一騎」  
阿礼「……」  
圭吾「向き不向きはあるんだぞ。お前だって  
できないこと、たくさんあるだろう」  
麗奈「期末も数学、赤点ギリギリ」  
一騎「は？ 絶対スポーツできた方が良いし」  
実「お前にとつての野球が、阿礼には勉強。」  
バスケは勉強の息抜き」  
阿礼「なんて？」  
実「バスケは、息抜き」  
阿礼「……」  
圭吾「そうだろう？」  
阿礼「食卓を見回す。  
皆、阿礼の方を見ている。」  
阿礼「……うん」

○同・阿礼の部屋（深夜）  
高校生には勿体無いくらいの広くて綺麗  
な一人部屋。  
阿礼、仰向けに寝ている。  
寝つけず、ベッドの下から箱を出す。  
箱の中身を開ける阿礼。  
中は NBA の DVD。

× × ×  
NBAの映像が映っているテレビ。音量は  
微かである。

廊下から声と足音が聞こえる。  
一騎の声「腹減ったんだけどー」

阿礼、慌ててリモコンを取り、音量を下  
げる。

NBA選手が、ひたすらダンクをしている  
ド派手な映像が無音で流れる。  
テレビを見つめる阿礼。

○福岡家・リビング（深夜）

画質の悪いバスケの試合がテレビに映っ  
ている。

舜、ぼーっと観ている。

画面、悟(22)がボールをパスする様子。

× × ×

画面、またすぐボールを回す悟。

× × ×

画面、またパスをする悟。

悟の声「頭使えよー、頭」

舜、急に話しかけられ、驚いて振り向く。

髪型が整えられ、小綺麗になった悟、上  
機嫌で舜に話しかける。

舜「いんなら言えよ」

悟「どうせお前、またワンマンでやってるん  
だろー」

舜「びびって仕掛けてないようにしか見えね  
ーけど」

悟「考え抜いてやるんだぞ」

悟 自分の頭に指をあてる悟。

悟「誰が当たってるか、チームメイトの長所  
はどこか、どうすれば勝てるか。考え抜い  
て仲間を信じる。それがポイントガード」

悟、隣にある、グラフなどが書かれたホ  
ワイトボードをコンと叩く。

悟「ビジネスと、一緒だ」

舜「はいはい」

舜、テレビを消す。

悟「気に入ったか？ バッシュ」

舜「(凶星で)……は？」

悟「中古のローカット、捻挫するぞ」

舜「したことねーよ」

悟「そういう奴こそ、一回のダメージがでない」

舜「だったら新品、俺に買えよ。似合わねー格好する金、あるくらいならよ」

悟「ビジネスは見た目が9割。龍門寺さんが言ってたんだ」

と悟、寝室へ戻る。

舜「気持ち悪いんだよ」

○市立体育館・外(日替わり)

大きな体育館。

「埼玉県西地区バスケットボール合同練習試合」と立て看板がある。

光太ら英倫高校バスケット部、体育館前に並んでいる。

光太「よろしくお願いします！」

一同「よろしくお願いします！」

○同・観客席

光太たち、観客席に荷物を置いている。

他の高校生、こぞ一つ一つのコートに注目している。

コートにスマホを向けて、撮影している者もいる。

光太、気になり、人をかき分けてコートを見る。

コートでは、舜が一人、二人、三人と抜いてシュートを決めている。

歓声上がる観客席。

光太「アイドルだあ、舜」

スコアボード、新西高校が勝っている。

○同・別の観客席

真奈、紙を持って新西高校のスペースへ来る。

阿礼、森、湯川、矢崎は賑やかに話している様子。舜は一人で目を瞑っている。

真奈「お知らせです。次の北高、インフル  
感染しちゃって、来れないみたい」

真奈、紙を見て、

真奈「代わりの相手、英倫高校になりました」  
矢崎「またあ!？」

舜、目を開ける。

○同・コート

試合開始直前、新西高校と英倫高校の両  
チームがコート中央に集まっている。

光太、舜に近づいて小突く。

光太「言っつてよ! 部活やっつてるなら」

舜「偉そうに四番、つけやがって」

話す二人におや? と目を向ける阿礼。

審判がボールを上投に投げ、試合開始。

× ×

英倫高校、華麗なパス回し。

最後は光太が決めて、難なく得点。

× ×

ドリブルしている舜。

舜にマークマンが一人増える。

湯川「フリー!」

湯川がフリーでパスを要求する。

舜、パスせず、ドリブルがカットされる。

× ×

ドリブルしている舜。

舜にマークが三人ついている。

フリーの湯川と矢崎、パスを要求する。

矢崎「こっち! フリー!」

湯川「パス!」

舜、パスせず、ドリブルがカットされる。

○同・ベンチ

タイムアウト中の新西高校。

タオルを被って水を飲んでいる舜。

阿礼、森、湯川、矢崎、舜の様子を伺っ

ている様子。

阿礼「ゴール下、空いてるけど」

舜「しゃしゃんな! 下手くそが。どうせ打

たないだろ、お前に渡しても」

阿礼「(眩き)なら、抜いてよ」  
舜「あ!？」  
阿礼「……なんでもない」

○同・コート

ボールを持つ舜、ドリブルしている。  
光太ら三人のマークが着く。

森「こっち!」

矢崎「福岡!」

湯川「へい!」

阿礼、舜のマークマンにスクリーンをか  
ける。

舜「(阿礼に)どけ!」

舜、無理な体勢で倒れながらシュート。  
リングにも当たらず、ボールは外に出る。  
パウンドするボール。

倒れたまま息を切らしている舜。

阿礼「(舜を見て)……」

阿礼、デイフェンスへ戻る。

○同・ベンチ

試合が終わり、片付けをしている舜たち。  
ベンチから見えるスコアボード。新西高  
校が大差で負けている。

舜、コートを去ろうとする。

阿礼「片付け、まだ」

無視して歩く舜、コートを出る。

舜を見る阿礼、森、湯川、矢崎。

○同・廊下

自販機でドリンクを買っている阿礼。  
その隣、光太が来る。

光太「おっー」

阿礼「あ、(会釈)どうも」

阿礼、ドリンクを取って去ろうとする。

光太「驚いたよー、舜が部活やってて」

阿礼「(止まり)知り合い、ですか?」

光太「教えて欲しくてさ」

光太も自販機でドリンクを買う。

光太「舜をどうやって、バスケット部に入れた

の？」

○同・一階ロビー

ソファに座っている阿礼と光太。

光太「百万!？」

阿礼「阿礼、光太の口を押さえようとして、

阿礼「ちよっ!」

光太、阿礼に抵抗しながら

光太「そういうことか! 理解理解」

阿礼「変ですか? 部活にいるの」

光太「中学の話、知らない?」

素早く首を横に振る阿礼

○同・観客席

昼食を食べている森、湯川、矢崎。

真奈「スマホで電話をかけている。

真奈「変な事件に、巻き込まれてないと良いけど」

矢崎「高三すよ、変な事件って」

森「インターハイ常連校だよ? 三十点取れ

ただけでも、すごいのに」

矢崎「ほんとキレ症、あいつ」

湯川「余裕がないよね、余裕が」

○同・一階ロビー

阿礼と光太、座っている。

光太「中学の時、学年で一番上手いのが舜、二番目が俺」

○中学校・体育館・コート(回想)

練習試合。選手はビブスを着ている。

光太(12)、舜(12)にパス。

舜、相手を抜き、シュートを決める。

光太の声「一年の頃から、Ioniであいつに勝てるやつは、いないわけだ」

舜と光太、ハイタッチ。

○体育館・コート(回想)

公式試合。選手はユニフォームを着ている。

十五番のユニフォーム姿、舜。  
舜は二人にマークされてドリブル中。

光太の声「ただそれは、Ton1に限った話」  
「福岡！」とチームメイトから声がかかる。

舜、無理やりシュートを打って、外れる。  
膝に手をつけている舜。

光太の声「もう、全くパスができない。強い  
マーク、何人かついたらはい終わり」

(回想終わり)

○市立体育館・一階ロビー

阿礼と光太、座って話している。

阿礼「できない。しないじゃなくて」

光太「そこがミソ。あいつは天才だから、見  
えてる世界が、凡人とは違う」

阿礼「(よく分からず)はあ」

光太「過集中って、分かる？」

首を横に振る阿礼。

光太、買ったペットボトルの先を、阿礼  
の眉間に近づける。

光太「簡単に言うのと、何か一個にグーっと、  
集中しすぎちゃうこと」

寄り目になる阿礼。

光太「逆にその一つ以外は、感じ取ることが  
できない」

光太、阿礼がペットボトルに注目してい  
る間に、空いた片手で阿礼のペットボト  
ルを取り、阿礼の腹にゆるく当てる。

阿礼「冷たっ」

阿礼、驚いて後退し、壁に後頭部をぶつ  
けて痛がる。

光太「なんか、ごめん」

阿礼「(頭をさすり)だから、Ton1と5対5」

○体育館・コート(回想)

舜たち選手が試合中。ベンチや観客席か  
ら、声援が聞こえている。

飛んできたリバウンドを拾う舜。

光太の声「味方と敵で九人いても」

その瞬間、舜とマークマン、ゴールだけが見える、静かな空間になる。  
光太の声「舜にとっては、自分と相手の 1on1 なんだよ」

○中学校・体育館・コート（回想）

ビブスを着て試合形式の練習。

速攻で一人、相手のゴール前へ走る、フリーの舜。

舜「（手を挙げて）へい！」

パスは回って来ない。

舜「（止まり）……」

○体育館・物置スペース（回想）

空いたスペースで、床に座って弁当を食べている舜たちバスケ部。

舜、体を当てられ、弁当を床に落とす。

当たった当人、舜を気にも止めず、知らん顔で他の部員たちと食事中。

少し離れたところで、舜を見ている光太。

光太「……」

○中学校・バスケ部の部室（回想）

談笑している部員たち。

舜、入り、自分のシューズを取る。

舜「！」

シューズ、傷つけられた形跡がある。

舜、部員たちの方を見る。

部員たち、舜をチラッと見て少し笑った

あと、談笑に戻る。

舜、その中の一人の髪の毛を掴む。

× × ×

顔に痣を負い、一人で横になっている舜。

○体育館・ベンチ（回想）

舜のチームが試合の応援をしている。

顔に痣がある舜、無気力で観戦中。

コート、笑顔で光太がプレイしている。

ぼーっとしている舜の顔。

○中学校・廊下（バスケット部の部室（回想））

練習着の光太、チームメイトと話しながら部室に入る。

制服姿の舜、光太とすれ違いで部室から出てくる。

光太、あれ？と舜を振り返るが、深く気にせず、シューズを履き始める。

光太、足元に段ボールを発見。  
十五番のユニフォームが入っている。

光太「……」

光太、部室から廊下へ急いで出る。

廊下に舜は見えない。

（回想終わり）

○市立体育館・一階ロビー

座っている阿礼と光太。

光太「全国行っても、舜よりうまいやつ、いないんだよなあ」

阿礼、立ち上がって阿礼の方を向き、ペットボトルを握る。

光太「え、俺なんかした？」

阿礼「教えてください、僕も」

光太「？」

○新西高校・職員室前

舜、机に紙を広げ、書き始める。

退部届である。

阿礼、早足で来る。

舜「（顔を上げ）お前、なんで——」

阿礼「きつと、ヤケになって動くなって、英倫

のキャプテンが」

舜「いらねーことを」

阿礼「百万は？ いらないの？」

舜「ベスト8はな、お前からみたいな雑魚と一緒じゃ、いくら練習しても不可能だ」

阿礼、舜から退部届を取る。

舜「なに？ キレてんの？」

阿礼「試合から逃げて、パスできなくて」

舜「あ？」

阿礼「チームでバスケ、できなくて、誰かに

嫌われたりするものが、怖くて」  
舜「それも、あいつかよ」  
阿礼「なのにな、ぐちぐち、ぐちぐち、  
小学生みたいな、わがままで、上から、見  
下して、自分勝手に」  
舜「……」  
阿礼「雑魚は、福岡君の方じゃないのかな」  
舜「立ち上がり、阿礼に詰め寄る。」  
舜「ビビリに言われたくねーんだよ」  
舜、阿礼から退部届を奪おうと掴み掛か  
る。  
阿礼、ムキになって抵抗し、なんとか保  
持する。  
その勢いで、机に退部届を広げる。  
阿礼、舜の名前に二重線を引き、自分の  
名前を書き始める。  
舜「イカれたのか、頭」  
阿礼「次の試合、得点僕の方が上だったら、  
練習も試合も、何があっても必ず参加、と  
いうことで、お願いします」  
舜「俺の方が、上なら」  
阿礼「部活は好きにしてい、僕は……」  
舜「僕は」  
阿礼「人生で二度と、バスケ、しない」  
阿礼、書いてる途中、ペンが震えている  
も、なんとか書き終わる。  
阿礼「そういう、ことで」  
舜「バカ。やんねーよ」  
舜、もう一枚退部届を取る。  
阿礼「怖いんだ」  
舜「は？」  
阿礼「負けるのが、怖いんだ」  
舜「んなねーだろ、お前に」  
阿礼「逃げるんだ。試合からも、勝負からも」  
舜「……」  
阿礼「いいけど。それなら、それで」  
舜「……」  
阿礼、そのまま去る。

○市立体育館・コート

掛け声を出しながら、試合前のアップをしている、坊主頭の高校生男子。

その様子を、向いのコートの森、湯川、矢崎が見ている。

阿礼は一人でアップしている。

湯川「(阿礼に) 来るんだよね!？」

阿礼「(ぶっきらぼうに) 多分ね」

矢崎「おい? 機嫌悪いの?」

答えずボールをついてる阿礼。

森「四人で試合、するのかな」

矢崎、タイムーを見る。

残り一分を切ったところ。

矢崎「あり得るぞ、マジで」

湯川「頭が痛くなってきた。インフルエンザ

かもしれない」

矢崎「おいつ、(頭を抱え) あ、俺も」

森「福岡!」

コートの入り口、舜が歩いてくる。

湯川「遅いぞ!」

舜、上着を脱ぎ、湯川にパス。ユニフォーム姿になる。

湯川「(思わずして受け取り) おう」

舜、阿礼に近づく。

舜「さっきのギャンブル、俺にメリットが少

ねー。勝ったら前金、俺のもんにしてやめ

させろ」

阿礼「いいよ。でもこれは、ギャンブルじゃ

ない」

舜「あ?」

阿礼「僕が勝つんだ。絶対に」

ブザーが鳴り、アップの時間が終わる。

× × ×

× × ×

× × ×

× × ×

× × ×

阿礼「……」

× × ×

× × ×

阿礼、インサイドでボールを持っている。舜がアウトサイドで阿礼を呼ぶ。

舜「よこせ！」

阿礼、舜にパスをしかけるが、止める。

阿礼、強引に体を当ててドリブル。

舜「おい！ 無理だろ！」

阿礼「うおりゃ！！」

阿礼、強引にシュート。

ゴールに入る。

阿礼「(驚き) 入った」

× × ×

遠くからシュートを決める舜。

× × ×

インサイドでシュートを打ち続ける阿礼の映像が連続で流れる。入ったり、入らなかったり。毎回「おりゃ！」「うりゃ！」と声を出している。

○同・観客席

阿礼の得点場面を観戦する光太。

光太「(軽く笑い) あんな声出るんだ」

○同・コート

リバウンドのボールが宙にある。

舜と阿礼、ボールに手を伸ばす。

ボールを奪い合う二人。

湯川「味方味方！」

舜・阿礼「味方じゃねえ(じゃない)！」

阿礼が強引に奪い、無理やりシュート。

それが外れて、森の元にボールが来る。

森「え？」

森、明らかにフリーになっている。

森「(シュートを打ち) ほいやっ」

決まり、ブザービートになって試合終了。

スコアボード、70対68で新西高校が

勝利する。

森「(自分でも驚き) おお、おおお」

拳を突き上げる森の元にチームメイトが

集まり、盛り上がる。

○同・一階ロビー

靴を脱ぎ、帰ろうとしている舜たちバス

ケットボール部。

光太「ぐちやぐちやで、Ion1 ばっか。ストリート  
の試合かと思った」

舜「悪いかよ」

立ち上がる舜。

光太「いいと思うよー。そういうのも」

舜「……あつそ」

○バス車内

スマホでトラックを流し、マイクを使っ  
た簡易的なカラオケ大会をしている。

熱唱している阿礼。

舜、前の席でイヤホンを着け、目を閉じ  
ているが、うるさくて顔をしかめている。

阿礼、舜の顔にマイクを当て、マイクを  
パスしようとする。

舜「うるせーな！ 歌う体力あったなら、試  
合に使えよ！」

湯川「いいじゃないかー、今くらい」

矢崎「ベスト16 だぞ、さっきの坊主軍団」

舜「点取ったの、俺——」

阿礼、舜の顔を覗き、

阿礼「僕と、同点だったよね？」

舜「……」

阿礼「はい、歌って」

阿礼、舜の膝の上に、マイクを置く。

舜、阿礼に無理やりマイクを渡そうとす  
るが、受け取らない阿礼。

イントロが流れる。

皆、舜を見て歌うのを待っている

舜、マイクを使い、話し始める。

舜「辞めなくてもいいのか？ 俺」

阿礼「？」

舜「俺は多分、これからも、パスをしない」

阿礼「……」

舜「つーか、できない。だから」

矢崎「は？ 何言ってるの？」

森「福岡来なかったら、一試合も、勝ててな

湯川「いんだし」

湯川「正直パスとかは、期待してないね」

矢崎「盛り下げんなって、空気読む！」

森、スマホの音量を上げる。

阿礼、リズムに乗って、舜を見る。

舜「……」

舜、歌い始める。

音痴である。

阿礼、リズムに乗るのをやめる。

森、湯川、矢崎、舜から目を離す。

舜、歌うのをやめて、

舜「なんだよ」

舜以外、クスクスと笑い始める。

森「おい！」

森「声、どこから出てるの？」

矢崎「耳割れるって、マジで」

笑い声が徐々に大きくなる。

舜の手、マイクを握る力が強くなる。

舜、運転手の方を向く。

舜「降ろしてください！」

○福岡家・リビング（夜）

舜、ビニール袋片手に帰宅する。

立ち止まる舜。

家の中のファッション関係の荷物や段ボ

ールがなくなっている。

ホワイトボードも真っ白になり、ガラッ

としていてる。

寝っ転がっている悟。垢抜けた外見から、

元の小汚い格好に戻っている。

舜、悟を跨ぎ、テーブルにつく。

ビニール袋からコンビニ弁当を取り出し、

レンジに入れて温める。

悟、舜に背を向けたまま、

悟「俺の分は」

舜「買ってこいよ、自分の（強調して）ビジ

ネスで、稼いだ金で」

返事がなくなる悟。

舜「つか今日、あの男と用あるんじゃないの

かよ」

無視して答えない悟。  
舜、リュックからユニフォームを出し、洗濯袋に放る。

悟、ユニフォームを見て、

悟「試合か」

舜「あ？ ああ」

悟「バイトは？ してんのか」

舜「週一とか。部活あるもんで」

悟「部活とか、意味あんのか」

舜、レンジの前に戻ってスマホをいじり始める。

悟「どうせ周りは、弱小校でやってきたやつらだろ」

舜、スマホを置き、

舜「どうせってなんだよ、急に」

悟「（ふん、と笑い）すぐ辞めるさ」

悟、布団を被ってその場で寝始める。

温め終わり、レンジが鳴る。

舜、弁当を取ろうとするも、手が止まる。

ガラんとした部屋を振り返る舜。

舜「やっぱり、詐欺師だったんだ」

悟「……」

舜「（ニヤニヤして）コンサル料だけ取られて、裏切られたんだろ、なあ」

悟「……」

舜「凶星かよ。はえーって、切られるの」

舜、弁当を取り、席で食べ始める。

舜「仲間つつつてたっけ。あんなの信頼する薄っぺらい奴が、チームに突っかかんよ」

悟、起き上がり、舜の隣に立つ。

舜、悟を見上げる。

× × ×

× × ×

ものが荒れているリビング。  
ほとんど食べられていないコンビニ弁当が机上にある。  
布団を被って横になっている悟。

○公園・バスケットコート（夜）

横になっている舜、腹が鳴る。

舜、財布を取り出し、中を見る。

数十円しか入っていない。  
ボールが舜の元に転がる。

舜、拾い、相手にパスで返す。

相手はぼんやりとしか見えないが、舜に  
近づいてくる。

阿礼の姿が見えてくる。

舜「お前かよ」

阿礼「何してるの？ 練習？」

舜「飯食ったか？」

阿礼「え？ まだ」

舜「Toni 負けた方、ラーメン奢りでどう？」

阿礼「家で食べるって言っちゃって」

舜「つまんね」

阿礼「（左頬を指し）ねえ、ここ」

舜の左頬、あざがある。

舜、また腹が鳴る。

○タワーマンション・外（夜）

見上げている舜。

綺麗な高層マンション。

阿礼「こつち」

入り口へ向かう舜と阿礼。

○同・一階ロビー（夜）

歩いていく舜と阿礼。

舜「どこなんだ、ここは」

阿礼「だから家だつて」

舜「制服とかで、来なくていいのか？」

阿礼「制服？ なんで」

○同・エレベーター（夜）

乗っている舜、阿礼。

表示階数、どんどん上になっていく。

耳を押さえる舜。

舜「帰るたび、耳キーンなのか。頭おかしく

なるだろ」

阿礼「んー、別に」

何食わぬ顔をしている阿礼。

○同・望月家・リビング（夜）

食事をしている望月家と舜。  
舜の左頬、絆創膏が貼つてある。

食事はイタリアンで、舜はナイフとフォークをぎこちなく扱っている。

麗奈「パスタのおかわり、いる？」

舜「(緊張して) あ、はい」

舜、食器を麗奈に渡す。

舜、隣の阿礼に呟く。

舜「毎日、こんな良いもん食ってんの」

阿礼「良いもんなの？」

舜と阿礼の正面、一騎と実がガツガツ食べている。

一騎「おかわり！」

実「おかわり」

舜「そりゃあ、デカくなるわ」

麗奈、舜におかわりを出す。

舜「(会釈し) すいません」

麗奈「良いの良いの」

圭吾「部活の友だち連れてきて、張り切ってるんだ」

麗奈「不安だったの。運動部で、周りと上手

くやっついていけるかって」

黙ってご飯を食べている阿礼。

実「繊細でしょう、阿礼」

一騎「下手っすよね、バスケ」

圭吾「一騎」

一騎「いいじゃん、遊びなんだし」

舜「遊び？」

舜、阿礼を見る。

阿礼、舜と目が合うが、離して食事へ向かう。

圭吾「言い方」

一騎「じゃあ、受験のための息抜き？」

実「あの、僕たちみたいに、本気で上に行く、以外のスポーツも、素敵だと思います」

舜「…：…：そうすか」

舜、ちらっと阿礼を見る。

阿礼「ごちそうさま」

○同・同・阿礼の部屋（夜）

テレビにほぼ無音で映る NBA の試合。  
30点差がついた試合である。

観ている舜と阿礼。

阿礼「逆転、できるかな」

舜「無理だね」

阿礼「追い上げてるけど」

舜「3ピリ終わるだろ、無理だつて」

阿礼「諦めたら、そこで――」

舜「ない。負ける」

阿礼「夢、ないね」

舜「バスケットはそういうスポーツだろ」

阿礼「どういうこと？」

舜「サッカーとか野球と違って、一点が軽い  
だろ。運とか調子に、左右されない」

テレビの試合、選手交代が行われている。

舜「流れとか調子悪くても、タイムアウトも、  
交代もあるから取り戻せる」

阿礼「実力が、そのまま出ちゃうのか」

テレビの試合、交代した選手が点を取っ  
ている。

点差が32点差に開く。

舜「ジャイキリも、大逆転勝利もない。諦め  
たらそこで試合終了じゃない。4ピリ始ま  
って30点差ついてたら、試合終了」

阿礼「確かに夢、ないね」

舜、傍にある箱を見る。

NBAのDVDがたくさん入っている。

舜「なのはどうして、ウチ来たんだよ？」

阿礼「え？」

舜「バスケット好きなら、英倫とか」

阿礼「英倫は、試験落ちた」

舜「落ちねーだろ、お前」

阿礼「……本番、あがっちゃって」

舜「お前はホント、雑魚だな」

部屋の外、廊下から一騎と実の話し声が  
聞こえる。

阿礼、リモコンを取って、無音にする。

舜「音。なんで？」

阿礼「もう夜だし」

舜、時計を見る。20時である。

舜「ガキじゃねーんだから」

阿礼「……」

舜「お前の家のことは、知らねえ。他の奴に、  
気い引けてんのかもしんねーけど」

阿礼「……」

舜「好きなもんは、好きって言えよ。じゃね  
ーと多分、雑魚なままだぞ」

阿礼「だから……雑魚じゃない」

阿礼「リモコンを取り、指を音量ボタン  
にかける。」

阿礼「……」

阿礼、一つ、音量を上げる。

阿礼、少しづつ音を上げていく。

適度な音量になる。

そのまま試合を観る、舜と阿礼。

○新西高校・部室（日替わり）

舜、阿礼、森、湯川、矢崎がいる。

舜が立って、説明している。

舜、ホワイトボードに「Ion1」と大きく  
書く。

舜「Ion1」の最強集団になる。全員、持ったら  
すぐ仕掛ける。んで、相手には抜かせない」

真奈、入る。

真奈「これ見て！ すごいことなってる」

真奈、スマホを見せる。

SNSの画面、舜が練習試合で得点する動  
画が映っている。

矢崎「うわ、軽くバズってる」

真奈、スマホのメールの画面を開く。

真奈「そしたら練習試合したって、ウチに  
たくさん連絡来て、えっと」

真奈、スマホを見ながら高校の名前を、  
ホワイトボードに書き始める。

舜「全員で、全部倒すぞ」

舜、ホワイトボードを、コンと叩く。

○同・体育館・コート（日替わり）

Ion1の練習をしている。

ディフェンスの湯川、オフェンスの矢崎

のボールをカットする。  
飛び込んでボールを取る湯川。

湯川「よしっ」

舜「はい、ダッシュ5本」

矢崎「あーくそっ」

矢崎、走り始める。

ボールを大事そうに抱えている湯川。

舜「(湯川に)な」

湯川「？」

舜「勝った方が、楽しいだろ」

× × ×

(日替わり)

インサイドで Toni をしている森。

ディフェンスの湯川、踏ん張るも、森に

押し込まれる。

森「ほいやっ！」

相手の湯川を吹っ飛ばし、ゴールを決める森。

阿礼「ナイス！ はい、五分休憩」

浮かない顔をしている森。

舜「なんだよ、辛気臭え」

森、自分のお腹を触り、

森「いくら練習しても、痩せないんだ。お父

さんもこんな体型だし、もしかしたら僕、

痩せない体質かも」

舜、森の腹を掴み、

舜「お前は、お前で良い。このポヨンのおか

げで、押し負けない時が結構ある」

森「そ、そうなの？」

湯川も森の腹を掴み、

湯川「結構ある」

森「：：そっかあ」

○別の高校・体育館(日替わり)

練習試合中。

ドリブルをして走っている矢崎、ディフ

エンスの前でスピードを落とす。

舜「シンプルに！」

矢崎「分かったよ！」

矢崎、力強いドリブルで相手を抜き、シ

ユートを決める。  
勢いのあまりゴール裏まで倒れる矢崎。  
通行中の他校の女子生徒の道を塞ぐ。  
その女子、迫力に見惚れて、胸の前で小  
さく拍手をしている。  
矢崎「インスタ、交換しない？」

○新西高校・部室（日替わり）

ホワイトボードに、「インターハイ予選ま  
であと『23日！』」とある。

○同・トレーニングルーム（日替わり）

ベンチプレスをしている阿礼。

舜「もつとだ、もつと」

湯川、森、迷いながらも、阿礼におもり  
を足していく。

阿礼、持ち上げる速度が落ちる。

舜「ギブアップかよ」

阿礼「（辛くて）……」

舜「ギブアップで、良いのかよ」

さらにおもりを足す舜。

廊下を通る教師、見かけて入ってくる。

教師「おいバスケ部！　そういうの、なんて

言うか知ってるか？」

舜「なんだろ（軽く笑い）え、いじめ？」

教師「分かっているならやめなさい！　ほら」

教師、阿礼のダンベルを下ろそうとする。

阿礼「あっち行け、やめろ！」

教師「？」

阿礼「うおおお！」

ダンベルをあげ切る阿礼。

○同・部室（日替わり）

ホワイトボードに、「インターハイ予選ま  
であと『18日！』」とある。

○道（日替わり）

コンビニ袋片手に、歩いている悟。

横に体育館があり、ボールの弾む音が聞  
こえる。

裏口の開いた扉から、コートで舜が走っているのが見える。  
立ち止まる悟。

○体育館・二階通路

いくつかのチームが集まり、合同で練習試合が行われている様子。  
高校生や保護者が通路に並び、観戦している。  
缶チューハイを飲みながら観戦している悟。

コートでは、新西高校が練習試合を行っている。  
舜が得点を決めたところで、試合終了の笛が鳴る。

スコアボード、新西高校が勝利している。

悟「Ton1はっかじゃねえか」

チューハイを一口飲み、ゲップする悟。  
周りの保護者、悟を不審に思い、距離を取る。

高校の教師、悟の元へ来て、

教師「すみません、アルコールはちよつと」

悟、空き缶を教師に渡し、去る。

○同・コート

整列している新西高校バスケット部と、相手チーム。

一同「ありがとうございます！」

試合が終わる。

舜、観客席の方に目が留まる。

悟が去る姿がチラッと見える。

舜「(悟だと、確信がつかず)……」

○公園・バスケットコート

歩いている悟、一度立ち止まる。

ボールは持ってないが、エアード一回シュートを打つ。

悟、再び歩き出す。

○新西高校・外観

一台のパトカーが停まり、ドアが開く。

○体育館・物置スペース

物置きスペースの空いた場所を、それぞれ陣取っている、各高校のバスケットボール部。

端に舜たち新西高校のバスケット部もいる。一同、昼食を食べている。

矢崎「あつついわ、まじで、狭いし」

湯川「全国大会だと、チームごとにロッカーが用意されているとか」

森「冷房付きかな」

湯川「お弁当も、豪華なのが出るとか」

森「え、天国」

阿礼「誰が言ってたの？」

湯川「インターネット」

矢崎「多分、テキストこいてんな」

舜「……確かめに行こうぜ」

阿礼「え？」

舜「ロッカールームあるか、メシがうまいか」

湯川「どうやって」

舜「インターハイ、本戦に行く」

森「観戦？」

舜「ちげーよ」

一同「……」

舜「ベスト8の目標は、捨てる」

舜、向こうのスペースに陣取っているチームを指し、

舜「さっきの、ベスト8だろ。もう達成してんじゃねーか、目標」

矢崎「行けるもんなの？ インターハイとか」

森「でも、お弁当、美味しいなら」

湯川「面白そう、ではある」

阿礼「行こう」

森、湯川、矢崎、本当か？ と顔を見合わせる。

森「……頑張っては、みる」

湯川「……了解」

矢崎「……おう」

舜「じゃあ、行くぞ」

○同・コート

試合中。

ドリブルからシュートを決める矢崎。

× × ×

ベンチで観戦中の真奈。

真奈「おい、迫力」

と、試合中の動画をスマホで撮っている。

画面に着信が表示される。

真奈「？」

× × ×

真奈、ベンチから離れた場所で電話をしている。

深刻そうな表情。

× × ×

相手を押さえ、リバウンドをとる森。

× × ×

相手のボールをカットする湯川。

× × ×

試合終了の笛が鳴る。

スコアボード、新西高校が勝利している。

喜んでいる舜たち。

舜「つしゃあ見たかよ！」

真奈、ベンチから舜を見ている。

○新西高校・玄関外

バス清掃、用具の整理など、片付けをしている舜たち。

舜、真奈の視線に気づく。

真奈、室内の方を指さす。

舜、真奈の元へ向かう。

○同・廊下へ応接室前

真奈、舜の順番に歩く。

真奈、応接室の前で止まり、入るように促す。

ここ？ とよく分かっていない様子の舜。

真奈、扉を開く。

中には校長先生と、警察が見える。

○同・応接室

舜と真奈、向かいに警察一名が座っている。

警察、舜に2台のスマホを見せている。

2つとも、SNSのショート動画の画面。

1つは、練習試合で点を取っている舜の映像。

もう1つは、公園で賭けバスケットを行っている舜の映像。

服装は違うが、動きがそっくり。

舜、俺じゃない、と言わんばかりに、首をかしげ、警察に何か話している様子。

警察、2つのスマホの動画を停止して、ズーム表示する。

つけているリストバンドが、同じである。

○同・部室（夕）

ホワイトボードの前に立っている舜。

「インターハイ予選まであと『6日!』」  
ペンを震えている。

○同・応接室（日替わり）

舜、真奈、校長先生が座っている。

真奈、大量の原稿用紙を机上に置く。

先生二人の話を聞いている様子の舜。

○同・体育館・コート（日替わり）

座っている新西高校バスケット部一同。

立って話している様子の舜。

舜、頭を下げる。

○同・廊下

歩いている舜。

舜、走って追いかけてくる阿礼に気づき、止まる。

阿礼「できないのかな。試合の時だけ、許してくれるとか」

舜「ロープで仕掛けるのも、リバウンドも、  
競り負けないようになった」

阿礼「？」  
舜「ルーズボール、躊躇なく飛び込むし、フ  
エイダウェイで逃げないで、体ぶつけに行  
ってる」

阿礼「……」

舜「強くなってるよ、お前」

阿礼「……」

舜「なんだよ、喜べよ」

阿礼「らしくない。褒めるなんて」

舜「体育館の方向から、笛の音が聞こえる。」

舜「サボんなよ、練習」

舜、玄関の方へ去る。

○福岡家・リビング（日替わり）

一人の舜、リビングで原稿用紙に向かっ  
ている。

「反省文」とタイトルだけ書き、その他  
は白紙。

舜、腕を枕に、机に突っ伏す。

舜の目線の先、デジタル時計。

○市立体育館・外

雨が降っている。

ボールの弾む音が聞こえる。

スウェット姿の舜、入る。

「埼玉県高校バスケットボールインター  
ハイ予選」と立て看板がある。

○同・観客席（夕）

試合を見ている舜。

新西高校の試合である。

スコアボード、新西高校が30点差で負  
けている。

ヘトヘトな様子の阿礼たち。

笛が鳴り、試合が終わる。

真顔で見ている舜、去る。

○公園・バスケットコート（夜）

舜、帰路を歩いている。

雨上がりでぬかるんでいる。

泥まみれになったボールが落ちてある。  
舜、拾うと、ドリブルをついて走り出す。  
ボールを思い切りゴールに投げる。  
ガゴン！ とリングに当てる。  
地面に落ち、弾んで転がるボール。  
息が荒くなっている舜。

○福岡家・舜の部屋

舜、入り、横になる。

× × ×

(日替わり)

部屋が汚くなっている。  
横になって寝ている舜。

○市立体育館・コート(日替わり)

トロフィーを持つ光太、チームメイトの  
肩を組み、記念撮影中。

○福岡家・舜の部屋(日替わり)

舜、横になってスマホで動画を観ている。  
画面に映るドキュメンタリーの動画では、  
前シーンの光太の様子が映っている。

笑顔の光太と、「インターハイ出場 おめで  
どう」のテロップ。  
舜、スマホの電源を切る。

○新西高校・部室(夕)(日替わり)

森、湯川、矢崎、阿礼の順で、ユニフオ  
ームを段ボールにしまう。

森、湯川、矢崎、部室を出る。

阿礼、ユニフオームを見て、立ち止まる。  
自身の四番のユニフオームを握る。

○同・外観(日替わり)

登校している舜。

○同・廊下

歩いている舜。

向こうから阿礼が来る。  
あっ、と気づく阿礼。

阿礼、何か話しかけようとするも、  
舜「よお」

とだけ言い、舜は通り過ぎる。  
阿礼「(舜を見て)……」

○同・教室

後ろの黒板に貼られてあるプリントに、  
生徒が群がっている。

模試の結果表のプリントである。

席に座り、後ろの騒ぎを見ている舜。

× × ×

テストの時間。

舜、頬杖をついて回答している。

窓の外、体育館から体育の授業でボール  
が弾む音が聞こえる。

舜、ペンを止め、窓の外を見る。

○同・応接室

舜、真奈に原稿用紙を提出する。

反省文である。

真奈「受け取りました」

舜「失礼します」

舜、立ち上がりかけるが。

真奈「ねえ、退学になっても、おかしくな  
ったの。ここだけの話」

と、止める。

真奈「どうして、停学で済んだと思う？」

舜「情状酌量がどうこうって、校長が」

真奈「情状酌量って？」

舜「俺ん家の家庭が、あれな状況」

真奈「どうしてそれを、知ってたと思う？」

舜「どうして」

真奈「誰が、先生たちに言ったと思う？」

舜「……」

○同・教室

ドアを勢いよく開ける舜。

教室を見回し、誰かを探している様子。

舜、ピシヤリと閉める。

○同・バスケット部の部室

舜、ドアを勢いよく開ける。

誰もいない。

出ようとしますが、段ボールに気づく舜。

4番のユニフォームがしまわれている。

舜「……」

○同・体育館・コート

昼休みの空いている体育館。

制服姿の阿礼、コートでシュートを打っている。

森、湯川、矢崎、コート外で座って駄弁っている。

阿礼のシュートがゴールに弾かれる。

入り口の舜の元に、ボールが転がる。

阿礼、パスを要求するポーズ。

舜、パスせず、ボールをドリブルしたまま阿礼の元へくる。

舜「(眩き) お前、先公に」

阿礼「(聞こえず) ん？」

舜「……いや、そういうのはいーんだわ」

舜、ボールをついたまま、手招きする。

舜「やろうぜ」

阿礼「いいけど」

二人の TonI が始まる。

森、湯川、矢崎も注目する。

舜、阿礼をフェイクで転ばして、シュート。

拍手する湯川。

矢崎「ブラボー」

舜、転んだ阿礼の顔を覗き、

舜「勝手に引退、してんじやねーよ」

阿礼「勝手にって、福岡君が……」

舜「このまま終わって、いいのかよ」

阿礼「……」

舜「悔しくないのかよ」

阿礼「立ち上がる。」

阿礼「しょうがないよ。負けたんだよ、僕たち」

舜「このまま終わって、悔しくないのかよ」

阿礼「切り替えるしかないよ、受験もあるし」  
舜「質問に答えるよ、悔しくないかって、聞いたんだよ」

阿礼「……」

阿礼、舜の向こうの方に気がつく。

阿礼、森、湯川、矢崎、立ち上がって、

二人の方を見ている。

阿礼「悔しいに、決まってるよ……！」

舜「ああ、俺もだよ」

○同・職員室（夕）

舜、阿礼、森、湯川、矢崎、真奈のデスクに来ている。

真奈「練習試合？」

舜「まだウチに、練習試合させろつつってる  
高校」

真奈「来てるけど、部員がウチ、いないから」

湯川「失礼します」

湯川、真奈のマウスを取って、パソコンのメールフォルダを開く。

真奈「あ！」

真奈、取り返そうとする。

矢崎「阿礼」

阿礼、真奈と湯川の間立って妨害する。

真奈「ちよっと」

湯川、メールを順番に開いている。

舜たち、パソコン画面を見ている。

舜「おいっ」

舜、湯川の手を止める。

画面を覗き込む一同。

○同・職員室前

阿礼、森、湯川、矢崎、席につき、書類を記入している。

入部届である。

○同・体育館（日替わり）

声を出して練習している舜たちバスケット部。

○同・校庭の外周（日替わり）

走っている陸道。

綺麗なフォームで、スイスイ進む。

騒がしい音が聞こえ、後ろを向く。

舜たちバスケット部のメンバーが、ダッシュしている。

陸道、抜かれないようにスピードを上げる。

舜、阿礼、森、湯川、矢崎、徐々に陸道との距離を詰める。

舜たち、「うおお！」「おらあ！」と各々声をあげ走り、陸道を抜かす。

陸道「(スピードを緩め)はやつ」

○福岡家・舜の部屋(深夜)

舜、天井にバスケットボールのクッションを投げ、キャッチして、を繰り返している。

○道(日替わり)(朝)

自転車に乗っている阿礼。

勾配のきつい下り坂に来る。

阿礼、下り始める。

ブレーキをかけず、どんどん加速する。

交差点が近づく。

阿礼、ブレーキに指を触れさせる。

阿礼「……」

ブレーキから指を離し、加速を続ける。

阿礼、そのまま交差点を走り切る。

交差点を渡ろうとした車から、クラクションが聞こえる。

そのまま流して走る阿礼、満足気な表情。

○福岡家・舜の部屋(朝)

朝日がカーテンの隙間からさしている。

引き続き、バスケットボールのクッションを天井に投げ、キャッチして、を繰り返している舜。

舜、クッションを壁に思い切り投げて、

舜「眠いって」

○英倫高校・体育館・コート

一般的な高校の体育館コート。

観客がまばらにいる。

新西高校バスケット部の一同、円になって集まり始める。

全員揃い、肩を組む。

× × ×  
反対側のコート、英倫高校がアップしている。

二階席、ベンチ外の選手たちがすし詰めで並び、メガホンを叩いて野太い掛け声を出している。

× × ×  
新西高校の方から大きな声が聞こえ、英倫高校一同、一瞬静まる。

× × ×  
新西高校のコートでは、舜たちが円陣を組む、「おおお！」と大声を出している。観客たち、その様子に注目している。

阿礼「ワンツースリー！」

一同「おお！」

× × ×

試合前、隣同士に並ぶ舜と光太。

舜「おちよくってんのかと思っただぜ。英倫様が、ウチにオファアッって」

光太「舜に勝っておけば、全国行く時、弾みつくかなーって」

舜「大丈夫か？ 本戦前に、自信無くすぞ」

審判が上にボールを投げ、試合開始。

阿礼が弾いて、舜がボールをキャッチ。

一直線にゴールへ加速。

シュートを決める舜。

舜「おらあ！」

○福岡家・リビング

横になって半分寝ていた悟、むっくりと起き上がる。

悟「メシ、あるか」

悟、舜の部屋のドアを開けるも、いない。

悟「……」

○英倫高校・体育館・ベンチ  
タイムアウト中。

スコアボード、新西高校が、十点差で英倫高校に負けている。

チームメイトに檄を送っている舜。

真剣に聞いている一同。

舜「(湯川に) 楽すんな！ こだわってコンタクトしろよ！」

ゼエゼエ言いながら頷く湯川。

湯川「はい……！」

舜「走りきれ！ 勝ったら肉奢ってやる」

森「お菓子じゃない方！？」

舜「叙々苑だ」

森「行ったことない」

舜「(矢崎に) あそこみる。金髪の」

舜、観客席の女子高生指す。

矢崎「えかわいい」

舜「あっちの八番と付き合ってたらしい」

矢崎「付き合ってた？ 過去形？」

舜「バスケットが上手いから付き合ってた、スタメン落ちたから、別れたらしい」

矢崎「勝つしか、ねーな」

舜、阿礼を見て、

舜「殺す気でやれよ。やらねーと殺すぞ」

素早く何度も頷く阿礼。

笛が鳴り、タイムアウトが終わる。

○同・同・コート

舜、遠くからシュートを決める。

× × ×

ドリブルで仕掛ける舜。

マークマンの光太を抜けない。

× × ×

矢崎、ドリブルからシュートを決める。

× × ×

ドリブルで仕掛ける舜。

また光太を抜けない。

× × ×

インサイドでボールを持つ阿礼、シュー

トを打つ。

阿礼「うりゃあ！」

しかしリングに弾かれる。

× × ×

湯川、舜にパスをする。

舜、ドリブルで相手のゴールへ向かうが、

光太にカットされ、ボールは外に出る。

舜「……」

ニヤリと笑う光太。

○同・同・ベンチ

タオルを頭に被り、肩で息をしている舜。

舜、スコアボードを見る。

十九点に、点差が開いている。

黙っている新西高校一同。

タイムマーの時間が過ぎていく。

矢崎「（舜に）なんか、言えよ」

森「4ピリ、始まっちゃうよ」

舜「抜けねえわ」

矢崎「はあ？」

舜「あいつ、俺のドリブル全部知ってんだ」

一同「……」

森「福岡がダメだったら、僕たち——」

舜「あいつ以外なら、全員抜ける」

森「え？」

舜、タオルを取って、阿礼の方を見る。

舜「スクリーンをかけてくれ」

舜が呟くと同時に笛が鳴り、次のピリオ

ドが始まる。

阿礼「……なんて？」

舜「俺に、スクリーンをかけてくれ」

○同・同・コート

ボールを持っている舜、ドリブルする。

ディフェンスの光太、ついていくが、

光太「！」

光太、阿礼のスクリーンに引っかかり、

舜の対応に遅れる。

そのままシュートを決める舜。

× × ×

ボールを持っていない舜、阿礼のスクリ

ーンを使って光太を剥がし、フリーでパスを受ける。  
そのままシュートを打って決める舜。  
× × ×  
ボールを持っていない舜、阿礼のスクリーンを使ってフリーになり、パスを受けようとする。  
デイフェンスが舜に気を取られている間、阿礼がフリーでパスをもらう。  
そのまま簡単にシュートを決める阿礼。  
デイフェンスに戻る舜と阿礼。  
二人、軽くハイタッチ。  
スコアボード、点差が五点差に縮んでい  
る。  
× × ×  
舜、阿礼のスクリーンを使って、ドリブルからシュート。  
審判、デイフェンスファウルの笛を吹く。  
空中の舜、ニヤリと笑う。  
地面に近づく舜の左足、おかしな角度で着地する。  
ボールがネットに入っていく。バスケットカウントである。  
どよめく観客の声。  
阿礼「よし！：：？」  
舜が立てない状態である。  
なんとか立つ舜、フリースローラインに向かう。  
阿礼「大丈夫！？」  
舜「グネっただけだ」  
と言った途端、バランスを崩して倒れてしまう。

○同・同・ベンチ

右足で貧乏ゆすりをしている舜。  
ベンチから見える試合。  
新西高校は四人でプレイしている。  
× × ×  
貧乏ゆすりをしている舜。  
スコアボード、点差が十点差に開く。

× スコアボード、点差が十六点差に開く。  
× 舜、立ち上がって歩こうとするが、ヨレ  
ヨレでまた倒れてしまう。

真奈「福岡君……！」

観客席の方を見上げる舜。

舜「！」

観客席には悟がいる。

悟、頭に指をトントンと叩く。

舜「……クソが」

舜、悟に中指を向ける。

舜、椅子に座り、コートを向く。

舜「矢崎、四十五度でもらえ！」

矢崎「あ！？おう！」

矢崎、湯川からパスを受ける。

矢崎「仕掛ける！」

矢崎、ドリブルをして、シュートを決める。

舜「そう！」

舜、ベンチから叫び、選手の動きを支持する。

舜「6番スリー捨てろ！ 8番左くるぞ！

おい森！ デイナイ忘れんな！ そう！

ナイスリバン！ いいか！？ 俺の声、よ

く聞いとけ！」

スコアボード、点差が九点差になっている。

× リバウンドを取る森。

× 指示している舜。

× シュートを決める湯川。

× タイマーの残り秒数、20秒を切る。

× 叫んでいる様子の舜。

× 湯川、相手のパスをカット。

タイマーの残り秒数、10秒を切る。  
矢崎、湯川からパスを受け取り、ドリブルでディフェンスを抜いて、シュート。  
×  
タイマー、残り6秒。  
×  
指示している舜。  
×  
矢崎の外れたシュートを、森がキャッチ。  
森、阿礼にパスする。  
×  
タイマー、残り2秒。  
×  
阿礼、ポストプレイでシュートを打つ。  
×  
タイマー、0秒になろうとする。  
×  
阿礼のシュートが入り、ブザービートになる。試合終了。  
観客から歓声が聞こえる。  
阿礼、座り込んでしまう。  
スコアボードを見る。  
阿礼「……」  
スコアボード、76対71で、新西高校が負けている。  
英倫高校のメンバー、真ん中に整列する。  
新西高校のメンバー、各々座り込み、動けない様子。  
観客の拍手、大きくなる。  
阿礼たち、立ち上がって、並ぶ。  
礼をする阿礼たち。  
一同「ありがとうございました！」  
英倫高校は新西高校のベンチに、新西高校は英倫高校のベンチに挨拶に行く。  
阿礼「！」  
阿礼、舜がベンチ近くで、うずくまっ  
ているのを発見。  
阿礼、舜の近くへ行く。  
舜「ヴヴ、ヴヴ……！」  
と、人目を憚らず泣いている舜。  
阿礼「行くよ！」

ゆっくり顔を上げる舜。  
目の前には、阿礼の、森の、湯川の、矢  
崎の姿がある。  
舜、彼らに肩を担がれながら、英倫高校  
のベンチへ向かう。  
観客の拍手、もう一度大きくなる。  
向かう最中、話す舜と阿礼。  
舜「負けちまった……」  
阿礼「阿礼も泣くのを我慢して、  
阿礼「でも、強かった」  
舜「……勝ちたがった」  
阿礼「でも、僕たち……強かった」  
舜「……当たり前だ……俺がいるチームだぞ」

○バス車内

新西高校バスケ部が乗っている。  
しんみりとした空気。  
舜、阿礼、森、湯川、矢崎、顔を下に向  
け、各々浸っている様子。  
真奈「泣きながら乗ってくる。  
真奈「本当にみんなありがとう。この試合、  
一生忘れない」  
真奈「スマホで音を流し始め、  
真奈「だからお礼に、先生も歌わせてくださ  
い。Greenで、『キセキ』」  
歌い出す真奈。  
舜たち、泣き止み顔をあげ始める。  
舜「ラブソングかよ……」  
各々、イヤホンを耳にはめ始める。

○新西高校・外観（日替わり）

○同・部室

森、湯川、矢崎、阿礼、舜の順番でユニ  
フォームを段ボールにしまう。

○福岡家・リビング

舜、コンビニ袋を持って、学校から帰宅  
する。  
寝っ転がってテレビを見ている悟。

舜「働けよ、いい加減」

舜、悟のそばに一枚のプリントを落とす。  
「バスケットボールコーチ・募集」とタ  
イトルがある。

舜「うちのチーム、バスケ分かるコーチがい  
ねーわけ。ま、部員集めるところからなんだ  
けど」

舜、コンビニ袋から弁当を出して、悟に  
背を向けて食べ始める。

舜「それくらいしかできねーだろ。あんた」  
テレビを観ている悟、チラリと視線を、  
チラシに移す。

○体育館・コート（日替わり）

昼休みの時間。

制服姿の舜と阿礼、バスケットボールを  
適当についている。

舜「推薦？」

阿礼「それか、今からでもAOかなって」

舜「そんなの、雑魚がする受験だ」

阿礼「真つ当な試験なんだけどな」

舜「一般受験でやれ」

阿礼「どこ行きたいの？ 大学」

舜「……今年は金貯めて、浪人する」

阿礼「……そっか。じゃあまだ」

舜「いーや、もう、絞ってる」

阿礼「え、どこ」

舜「次のインカレ、優勝したとこ」

阿礼「大学バスケ、やるの？」

舜「やるなら、強えーとこがいいだろ？」

笑みがこぼれる阿礼。

ボールをつく舜、阿礼に手招きする。

阿礼、ディフェンスの構えになる。

二人の TonI が始まる。

終わり

【参考資料】

- ・スクリーンプレイについて  
『【3分解説】“スクリーン”プレーの種  
類まとめました！「ピックアップアンドロール  
／ポップ／pick and roll」』  
( [https://youtu.be/ntpwT7YqtqA?si=ax  
GrkxRx6d14QSHt](https://youtu.be/ntpwT7YqtqA?si=axGrkxRx6d14QSHt) )